

令和6年度 みどりの杜木城学園 主題研の方向性(6/19主題研資料)

文責 研究主任 長友(健)

【昨年度の資料より一部抜粋】

1 来年度の方向性

今年度の研究を継続する。

本年度スタートしたばかりであり、今年度始まった実践事項が各班にあり、それらを継続しながら、さらに研究内容の**深まり**を図りたいから。**(スリム化・焦点化)**

2 考えられる研究内容(抜粋)

① 「キャリア教育を通して育てたい力」及び「児童生徒の具体の姿」の見直し

※ **人間関係形成能力・社会形成能力を授業の中で育てたい**という反省もあった。

② 発信する側と受信する側の学年のバランスを考えた**異学年交流**の年間計画の作成



0 研究の目指す児童生徒像

①「自ら考え行動しようとする児童生徒」

②「自分の考えや思いを他者に発信する**他者と伝え合う**ことができる児童生徒」(焦点化・一部修正)

1 研究主題

「**自ら考え行動し、自分の考えや思いを他者に発信する他者と伝え合う**ことができる児童生徒の育成」
～発信する側と受信する側の学年のバランスを考えた異学年や他者との交流活動をとおして～

2 主題設定の理由

昨年度末、「木城学園で身に付けたい力」がどのように変容したのかを検証した。その結果、「異学年交流」において、発信する側になった学年ほど自己評価が高くなったことが分かった。しかし、「異学年交流」について、発信する側と受信する側の学年のバランスがとれておらず、受信のみの交流の学年もあった。また、検証の結果、児童生徒の人間関係形成能力・社会形成能力の自己評価が特に低く、キャリア教育や他の授業をとおして、それらを高めていく手立てを考える必要がある。


そこで、本年度は、昨年度の研究主題を引き継ぐとともに、本校の特色ある教育活動の中から、異学年交流(キータ임研究班の研究内容)に焦点化を図り研究を進めていく。

R5年度研究班		
【キータ임研究班】 <ul style="list-style-type: none">○ 異学年交流の計画・実施○ キータ임(核となる体験活動)の見直し○ 人間関係形成能力・社会形成能力を育成するための授業の在り方の研究	【コミュニケーション育成班】 <ul style="list-style-type: none">○ 英語科・外国語科における発信力及びコミュニケーション能力の育成についての研究○ 「コミュニケーション5」の作成・活用	【ICT 研究班】 <ul style="list-style-type: none">○ 日常的な ICT 機器の活用及び家庭学習での活用推進○ 全ての教科における指導場面ごとの ICT 活用「木城モデル」の積極的な活用推進(ちょこ参による OJT)



R6年度研究の方向性		
○ 本年度は、キータ임研究班の内容に焦点化する。さらに細分化し、班を組織し、研究を進める。	○ コミュニケーション育成班の研究内容は、英語科・外国語科を中心に継続する。	○ 家庭学習での活用推進は、研究部の業務として継続する。 ○ ICT 活用「木城モデル」の積極的な活用推進(ちょこ参による OJT)は、主題研以外の校内研修として継続する。

本研究では、キャリア教育を通して育てたい力の中で、人間関係形成能力・社会形成能力を以下のように整理している。

R5年度 本研究における人間関係形成能力・社会形成能力(一部抜粋)		
		
R6年度 本研究における「伝え合う力のゴールイメージ」		
第1ステージ(1～4年生)	第2ステージ(5～7年生)	第3ステージ(8・9年生)
<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の考えや思いを適切な言葉で他者に伝えようとする。 ○ 相手の話を聞きながら、相手のことを理解しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 他者の考えや思いを理解しようとして聞いたり、他者の考えを取り入れたりしながら、自分の考えや思いをもつ。 ○ 自分の考えや思いを相手にわかるように伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 他者の考えや思いを理解しようとして聞いたり、他者の考えを取り入れたりしながら、自分の考えや思いを構築する。 ○ 自分の考えや思いを他者に伝え、相手の考えも聞きながら様々な視点から意見交換する。

上記の姿を本研究「自分の考えや思いを他者と伝え合うことができる児童生徒」の**具体的なゴールイメージ**とする。

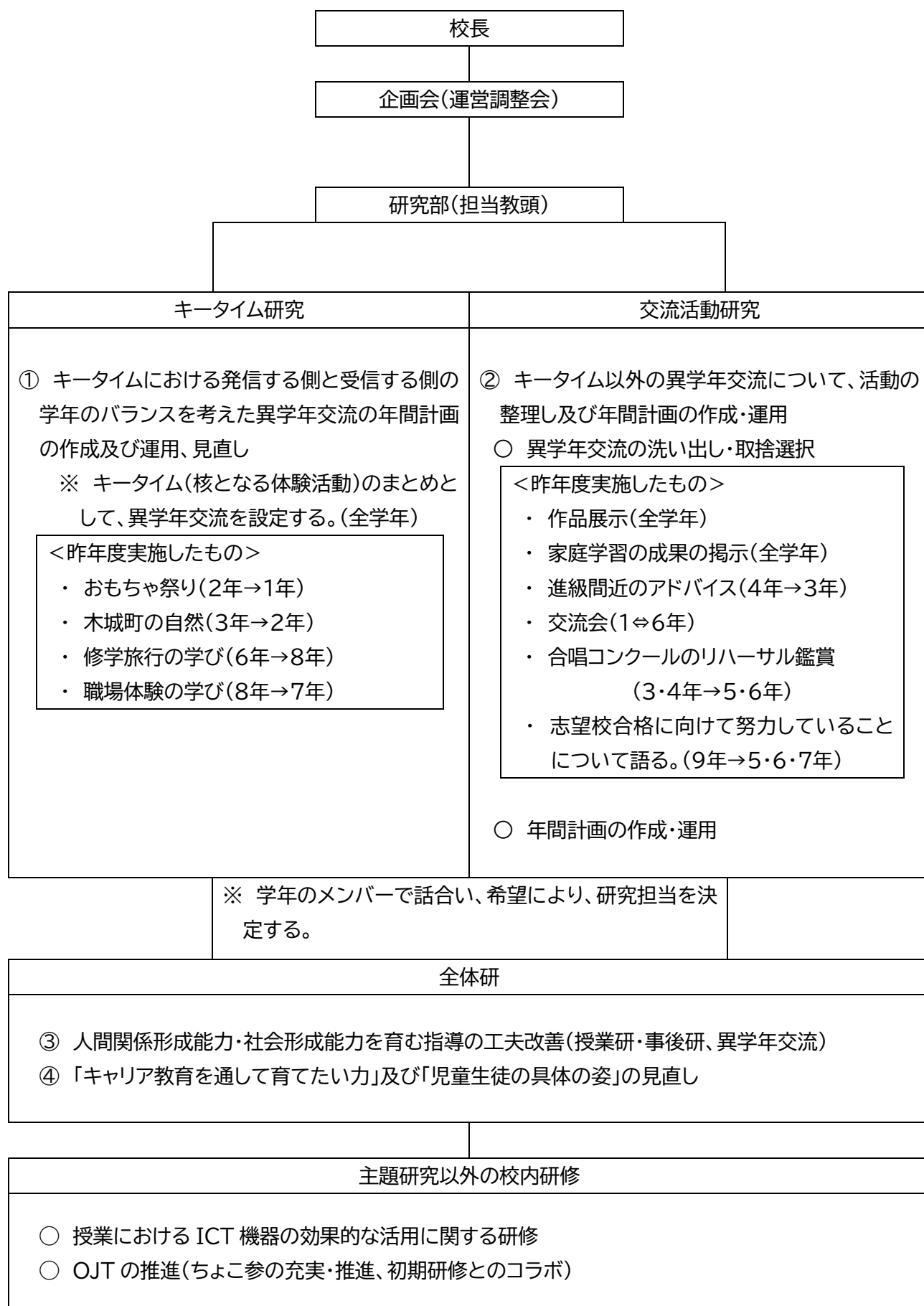
3 研究仮説

発信する側と受信する側の学年のバランスを考えた異学年や他者との交流活動をとおして、児童生徒が確実に発信する機会を設け、教師や学年間でカリキュラム(年間計画)や指導の工夫改善を図ることで、自分の考えや思いを他者と伝え合うことができる児童生徒の育成することができるであろう。

4 研究の内容

- ① キータイムにおける発信する側と受信する側の学年のバランスを考えた異学年や他者との交流活動の年間計画の作成及び運用、見直し
- ② キータイム以外の異学年や他者との交流活動について、活動の整理し及び年間計画の作成・運用
- ③ 伝え合う力(人間関係形成能力・社会形成能力)を育む指導の工夫改善
- ④ 「キャリア教育を通して育てたい力」及び「児童生徒の具体の姿」の見直し

5 研究組織



6 研究計画

回	日 (形態)	内容	
		主題研	主題研以外
1	4月 3日(水) (全体)	昨年度の研究内容の説明 今年度の研究の方向性アンケート	
2	5月29日(水) (全体・学年)	今年度の研究の方向性説明 研究組織・班について	5月9日(木)～ (希望者のみ・全4回) ロイロノートの使い方 に関するミニ研修会
3	6月19日(水) (全体・班)	【キータイム】 キータイムにおける異学年交流計画の作成 【交流活動】 異学年交流の整理・年間計画作成	
	7月後半	キータイム・異学年交流に関わる提案授業	
4	7月 日() (全体・班)	事後研・協議 活動反省・計画の見直し(1学期分)	
	8月 日() 夏季休業 (全体)		ICT 研修会
5	8月28日(水) (全体・班)	2学期からの取組確認 (※ちょこ参・キータイム・異学年交流)	人間関係形成能力・社会形成能力 に関する児童生徒の実態調査 (9月 Before)
6	9月25日(水) (全体・班)	【キータイム】 キータイムにおける異学年交流計画の運用 【交流活動】 異学年交流の整理・年間計画作成	
7	10月23日(水) (未定)		初期研とのコラボ ちょこ参週間① (ICT 機器の活用)
8	11月20日(水) (全体・班)	【キータイム】 キータイムにおける異学年交流計画の運用 【交流活動】 異学年交流の整理・年間計画作成	
9	12月18日(水) (全体・ステージ)	「キャリア教育を通して育てたい力」及び 「児童生徒の具体の姿」の見直し	ちょこ参週間② (ICT 機器の活用)
10	12月25日(水) (全体・班)	活動反省・計画の見直し(2学期分) キータイム・異学年交流 成果発表 準備	人間関係形成能力・社会形成能力 に関する児童生徒の実態調査 (1月 After)
11	1月22日(水) (全体・班)	キータイム・異学年交流 成果発表 活動反省・計画の見直し(3学期分)	
12	2月19日(水) (全体)	研究のまとめ・次年度の方向性	

※ ちょこ参(ミニ公開授業)は、10月と12月に実施する。必ず全職員1回以上公開する。